

テ二郡境域ノ大概ヲ知ルベシ、

伊佐郡以沙 新治郡ノ西邊ナリ補今眞壁郡ニ入ル、國人新治ヲ分チテ西郡、中郡、東郡トセシコトハ、郡名第一ニ述ベタルガ如シ、其内又西郡ヲ分テ二條トシ、西郡南條、西郡北條トナセリ、サテ南條ヲ關郡ト云ヒ、北條ヲ伊佐郡トヨベリ、弘安太田文ニ、西郡南條ト書シテ、關ト傍書シ、西郡北條ト書シテ、

伊佐ト傍書セシハ此故ナリ、全ク伊佐郡ト書キタルガ物ニ見エタルハ北條記ナル、北條時國ノ事跡ニ、弘安七年下向常陸國伊佐郡ト見ヘタル、是ゾ始メニハアリケル、伊達系圖常陸入道念西ノ傳ニモ、住伊佐郡中郡ト見エタリ、中村ハ今ノ中館ナリ、原本頭書水、谷系譜ニ、伊佐三十三郷ノ稱アリ、鹿島大禰宜文書、以下原本

補宮本元球云、鹿島護摩堂文書應安伊佐郡平塚郷今村ナドアリテ、伊讚ヲ本郷トス、弘安勘文、西郡北條伊佐九十九町一段六十歩内以東四十八丁大、トアリ、以西五十一丁半、

飯野八幡社古文書坤伊賀式部三郎盛光謹言上、欲早且任外題安堵讓狀旨、且依御方合戰軍忠、成賜安堵御下文、備末代龜鏡、彌抽武勇忠節、當知行所領常陸國伊佐郡内石原田郷地頭職、陸奥國好島莊内飯野村、并好島村預所職事、中略右然早且任重代相傳安堵讓狀等旨、且依御方合戰異于他忠、當知行無相違之上者、成賜安堵御下文、備末代龜鏡、彌爲抽武勇奉公、恐々謹言上如件、

建武四年六月日

〔新編常陸國誌十俗稱郡名〕關郡世岐 新治郡ノ西邊ニシテ、西郡南條ノ名ナリ、事伊佐ノ下ニ詳ナリ、コノ地今眞壁郡ニ入ル、原本頭書、關三十三郷ノ稱アリ、關郡ト云コトノ物ニ見エタルハ、東鑑以下原文缺

〔常陸國郡考二新治郡〕關郡 東鑑、寶治二年、關郡二木奈利郷今二木成村、梅松論、建武三年箱根竹下常陸合戦の段、關郡を結城祐に賜ふとあり、本郷は郡の南地、花田關本等の地也、弘安勘文に、西郡南條 百八丁五段三百歩とある、是關郡なり、

〔吾妻鏡三十九〕寶治二年六月十五日辛卯、酉刻常陸國關郡仁木奈利郷、白雪降則休止云云、

裏紙端 花押